

令和4年度版

# 中学校における 租税教育実践レポート



山形県租税教育推進協議会



# はじめに



「山形県租税教育推進協議会」は、租税教育をきわめて重要なものにとらえ、昭和 55 年 2 月、他県に先駆けて東北で最初に設立されました。これまで長きにわたり、数々の事業を着実に実施させていただいておりますことは、関係機関の皆様方のお力添えの賜であり、厚く御礼申し上げます。

さて、平成 23 年 11 月に、文部科学省・総務省・国税庁の協議により発足した「租税教育推進関係省庁等協議会（中央租推協）」においては、租税教育の充実に向けた基本方針等について、毎年、継続的に協議を重ねており、「小・中・高等学校における租税教育は、教育の現場、税の専門家及び各地域の税に関する民間団体等が連携・協働して、社会全体で取り組むべきもの」として合意・確認されているところです。

当協議会におきましても、従来から積極的に租税教育を推し進めてまいりました。

租税教育は、次代を担う子供たちが、財政や租税の意義・役割を正しく理解することで、社会の仕組みを知り、感謝の気持ちを育み、いずれは税を通して社会に貢献する意識を持った大人となる契機として必要なものであると認識しております。さらに、選挙権年齢の引下げに伴い、主権者教育の重要性も高まっております。財政の状況や現代社会の諸課題を知り、税金の使われ方について関心を高め、選挙を通して自分の意思を反映させるということは、主権者教育としてとても大切なことであると思っております。

また、当協議会の他県に誇れる特色ある事業として、昭和 58 年から実施しております「租税教育推進協力者の委嘱」があります。これは、各教育事務所から推薦をいただいた小・中学校の先生方に、「租税教育推進協力者」として租税に関する授業の実践研究を行っていただき、その指導内容を「租税教育実践レポート」としてまとめていただくものです。これまで延べ 566 名の先生方に、「租税教育推進協力者」として租税教育の実践研究に携わっていただきました。このことは、本県の教育機関にとって貴重な財産であり、租税教育の充実に大きく寄与しているものと確信しております。

本書は、令和 4 年度の協力者である 5 名の中学校の先生方が作成しました「租税教育実践レポート」を集約したものです。児童・生徒が税について主体的・対話的に学んだ授業実践が報告されており、租税教育の参考となる全国でも数少ない貴重な資料となりますので、是非活用していただきたいと思います。

最後になりましたが、大変お忙しい中、実践研究と執筆をお引き受けいただきました先生方に、心より感謝を申し上げ、巻頭の言葉といたします。

令和 5 年 3 月

山形県租税教育推進協議会代表幹事

山形県教育委員会教育長

高橋 広樹

# 目次

(順不同・敬称略)

・ 上山市立宮川中学校	教諭	高橋 恵	・・・・・・・・・・	1
・ 東根市立神町中学校	教諭	鈴木 翔悟	・・・・・・・・・・	2
・ 新庄市立明倫学園	教諭	野川 峻海	・・・・・・・・・・	3
・ 南陽市立沖郷中学校	教諭	富水 研大	・・・・・・・・・・	4
・ 酒田市立第二中学校	教諭	江連 由大	・・・・・・・・・・	5

※ これまでの実践レポートを含め、仙台国税局ホームページに掲載されております。

私たちの生活と財政～市をより魅力ある市にするために～

上市市立宮川中学校教諭 3学年 高橋 恵

実施年月日：令和4年10月 23名

1 実践計画・指導のねらい

本単元では単に税金について学ぶだけではなく、集めた税を用いて自分たちの住んでいる地域（上市市）をより良くするための政策を考えさせる。政策を実施するためには税収が必要不可欠であることに気づき、その税を負担している市民にとって社会保障や公共サービスは十分であるかどうかの視点を持つことで、行政側の考えと合わせて納税者側の視点にも立ち、主体的に授業に参加することができる生徒を育てたい。社会科で学ぶ知識が単に言葉としてだけでなく、実生活と深く結びついているものだと実感させ、「公民」になっていく生徒たちの、納税者としての主体的な態度や、自ら進んで地方自治にかかわっていく態度を育てていきたい。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問（○）、子どもたちの反応（●）、使用教材等（□）
1	・私たちの生活と財政 税金の種類やその役割について考える。	○ 税金って何だろう。 ● 税金も納める先によって種類が違うことがわかった。 ● 税金はないほうが良いと思っていたが、私たちの生活の大切な部分を支えていることが分かった。 □使用教材名 教科書「新しい社会 公民」（東京書籍） 副教材「私たちの暮らしと税」 DVD「アナザーワールド」
2	・社会保障に関する講話 納められた税がどのように社会保障に使われているのかを知る。	○ 社会保障制度って何だろう。 ● 保険や年金、公衆衛生について、身近なものだと感じられた。 ● 保険の仕組み自体は難しかったが、大人になったときに知らないと困る知識であると感じた。
3	・地方公共団体の財政 上市市の財政の実態について、資料から考える。 	○ 上市市の財政の実態を調べてみよう。 ● 上市市は財政が厳しいと思っていたが、意外とそうでもないことが分かった。 ● 自主財源は人口減少に伴って減ってきていることがわかるので、人口減少を止めて、市民のためになる税金の使い方を考えることが大事だと思った。 □使用教材名 教科書「新しい社会 公民」（東京書籍） 資料「令和3年度 わかりやすい予算書 かわのやまの暮らしと税金がわかる本」 資料「令和3年 数字で見るかわのやま」 
4 5 6	・政府の役割と財政の課題 上市市の財政上の課題を踏まえて、上市市がより魅力ある市になるための政策を考え、発表する。	○ 上市市をより魅力ある市にするための政策を考えよう。 ● 市民への公共サービスは大切だが、きちんと税収入を得られる仕組みが必要である。 ● 大好きな上市市に住み続けるために、これからも市の動きに注目していきたい。 □使用教材名 資料「令和3年度 わかりやすい予算書 かわのやまの暮らしと税金がわかる本」 資料「令和3年 数字で見るかわのやま」

【指導のポイント】≪2時間目≫

明治安田生命の方を講師に、社会保障が国民の生活を支えていることをお話していただいた。外部講師の方をお呼びすることで、生徒たちも興味を持って学び、理解を深めることができた。



【指導のポイント】≪3時間目≫

実際に市報と一緒に配布されるデータ資料を用いて、市の財政が生徒の身近にあるものだと実感できた。

【指導のポイント】

≪4・5・6時間目≫

班ごとテーマ設定をし、市をよくするための政策案を考えさせた。その際に「財政がまわること」を政策提案の条件の1つとし、常に税収が得られることと、その税がサービスとして市民に還元されることを視点に考えさせた。

3 実践の成果（◎）と課題（◆）（租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など）

- ◎ 単元を通して、税を払う側になることを忘れずに学習を進めることができた。これから納税者になっていく生徒たちに「公民」としての視点を育てることができた。
- ◎ 最終的に地方公共団体の税にせまることで、現在の国や地方が私たちのために行っている政策についても知ることができた。大きい意味で「市民」「国民」としての意識も高めることができたのではないかと考える。
- ◎ 保険会社の方や、市役所の方など、外部講師とつながることで生徒たちのより深く学ぼうとする意欲につながった。今後も地域とつながる授業を計画したい。
- ◆ 税についての資料は、生徒にとって難しいものもあったが、市の現状をとらえさせるためには生の数字のほうが良いという矛盾がでてきた。資料の精選が難しい。
- ◆ 時数の確保が難しい。授業に余裕があるわけではないので、単元を見通した計画性が必要になってくる。

## 自分の国の方向性を自分なりに考える

東根市立神町中学校教諭 3学年 鈴木 翔悟

実施年月日：令和4年12月16日～12月21日 33名

### 1 実践計画・指導のねらい

物価の高騰で、私たちの暮らしに大きな影響が出ている。生活する上で欠かせない「お金」。どのようにして支出を抑えつつ、自分のやりたいことを実現させていくかを考えたときに、生徒の中でも自然と「税金で支払われるお金をなんとかしたい」といった声が聞こえてきた。政府の歳出も増加傾向にあり、どのようにして予算を支える税金を確保するのか、増税の話題も出てきている。そこで、これからの日本を支えていく中学生の世代が、自分たちの暮らす日本社会の未来について自分の事として捉え、どのような方向に進んでいくべきかを真剣に考えることが本単元のねらいである。

### 2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○)、こどもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	・税金の種類を整理し、税金の役割を理解する。	○ <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">政府が行う財政政策。そもそも「税」って？</span> ● やはり税金は必要だ。 ● 諸外国と比べると、消費税率は高い方ではない。 ● こんなに種類あるの？全部覚えるの？ □使用教材名 副教材「わたしたちの生活と税」（スライド） 税の種類一覧（学習プリント）
2 3	・社会保障制度の内容と、諸外国の実態を調べる。	○ <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">歳出で一番多い「社会保障」って？日本だけ？</span> ● 医療費払わなくていいのはこれのおかげか。 ● コロナ禍で公衆衛生増えているのかな。 ● 年金増えている。このままだと負担増えそう。 ● 日本以外ではどうなっているのかな。 □使用教材名 少子高齢化と社会保障（自作資料）
4	・日本の今後の財政について考える。 	○ <span style="border: 1px solid black; padding: 1px;">大きな政府 or 小さな政府？</span> ● 教育への支出が少ないため、未来ある子どもたちのために税を集めるのであれば賛成。大きな政府にすべき。 ● 社会資本を充実させることが生活の充実や満足感につながると思う。大きな政府にすべき。 ● 様々な税金が払える人はいいけれど、税負担が苦しい人も少なからずいる。負担を増やさないために小さな政府にすべき。 ● 政府が制限かけずに市場経済に任せた方が家計の収入が増えると思う。小さな政府にすべき。 □使用教材名 教科書「中学生の公民」（帝国書院） 各自調べ学習した内容

#### 【指導のポイント】≪1時間目≫

中学生1人あたりに使われている税額や諸外国との比較データを提示することで、よりリアルに捉えられるようにした。税金の種類については、クイズしながらゲーム感覚で学習できるようにした。

#### 【指導のポイント】≪2時間目≫

少子高齢化のデータとともに社会保障関係費の増加を見ることで、「必要だけれど負担とのバランスの検討が必要」であることを意識させた。諸外国の実態調べは、興味ある国をできる範囲で行った。

#### 【指導のポイント】≪4時間目≫

どちらがいいか結論を出すのではなく、理由を大切に話をさせるようにした。

### 3 実践の成果 (◎) と課題 (◆) (租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など)

- ◎ 消費税以外にも多くの税があることや、生徒の感覚として納める税金の金額が少なくないことに気づき、税に対する関心の高まりを感じた。
- ◎ 自分が生活する国や地域の将来を考えることができ、国民主権を体現する国民としての感覚を養うことができた。
- ◆ 「持続可能」であることや、「自分にとって」だけにならないように留意して指導していくことが重要だと考える。
- ◆ 今後の税制度や改革について目を向けさせる機会をつくっていく必要がある。

# 2050年の日本の財政と社会保障制度の在り方を考えよう

新庄市立明倫学園教諭 9学年 野川 峻海

実施年月日：令和4年12月及び令和5年1月 69名

## 1 実践計画・指導のねらい

今回の授業を計画するにあたって、はじめに日本国憲法第25条の精神に基づく社会保障制度の基本的な内容を学習した。その上で、財政の現状や少子高齢化社会など現代社会の特色などを踏まえながら、受益と負担の均衡のとれた持続可能な社会保障制度の構築を考えさせた。生徒たちは、昨今の物価高の影響もあり、税金の「増税」や「負担」といった言葉に対してマイナスなイメージを持っている。そこで税の必要性と社会保障の安定化を図っていくことの重要性を理解させるとともに、持続可能な財政と社会保障とは何かを考えることを指導のねらいとした。将来の納税者としての自覚を高め、主権者としての関心を深められるようにしたいと考えた。

## 2 単元構成・実際の指導状況

時間	学習内容	主な発問(○)、こどもたちの反応(●)、使用教材等(□)
1	・「私たちの生活と財政」 税金の種類や納め方の違いについて確認するとともに税金を納める必要性について理解を深める。	○ <u>税金にはどのような種類があるのか?</u> ● 様々な税が身の回りであることを知った。特に所得税は、所得に応じて課せられる税の負担が違うことを初めて知った。 ○ <u>なぜ税金を払わなければいけないのか?</u> ● もし税金を払わない世界に生まれたら、警察や消防が有料のサービスになることに驚いた。 □使用教材名 教科書「新しい社会 公民」(東京書籍) DVD教材「ご案内しますアナザーワールド」(国税庁)
2	・「財政の役割と課題」 日本の社会保障制度の仕組みを理解する。	○ <u>日本の歳出内訳において一番大きい社会保障とは何だろうか?</u> ● 身近なところに税金が使われていることが分かった。特に新型コロナウイルスのワクチンが無料である理由が分かった。 □使用教材名 教科書「新しい社会 公民」(東京書籍) 副教材「私たちの暮らしと税」
3	・「社会保障の仕組みと少子高齢化と財政」 少子高齢化による財政への影響を理解する。	○ <u>少子高齢化は社会保障制度にどのような影響を及ぼすのか?</u> ● 現役世代が納める保険料の負担が年々大きくなっている理由がわかった。またこの問題は他人ごとではなく、自分たちに直結する問題であることを知った。 □使用教材名 教科書「新しい社会 公民」(東京書籍) 資料集「ビジュアル公民 2022」(とうほう)
4	・「2050年の日本の財政と社会保障の在り方を考える」 約30年後の財政と社会保障制度の在り方について議論する。	○ <u>2050年の日本の財政と社会保障の在り方を考えよう</u> ● アメリカやフィンランド、フランスの社会保障制度の在り方を知って、日本の社会保障制度の特徴を知ることができた。また、どの社会保障制度もメリットとデメリットがあることを知った。 ● 大きな政府を維持するのか、小さな政府に変化するのか、ヨーロッパ大陸型のように所得に応じた社会保障にするのか、グループで話し合ったがまとまらず難しい問題だと思った。今後、日本はどのような政策をしていくのか興味を湧いた。  □使用教材名 教科書「新しい社会 公民」(東京書籍) 資料集「ビジュアル公民 2022」(とうほう) 副教材「私たちの暮らしと税」

### 【指導のポイント】<<1時間目>>

レシートなどから身の回りに様々な税金が存在していることに気付かせた。また、公平で公正な税負担のために様々な税金の納め方が存在していることを理解させた。さらに、DVDを視聴し、税金が果たしている役割について気付かせた。特に、当たり前存在している学校や道路などの社会資本、警察や消防といった公共サービスが税金によって成り立っていることなどについて理解を深めた。

### 【指導のポイント】<<2時間目>>

社会保障の4本柱と関連の深い写真を用いし、私たちが日常生活の中で様々な社会保障制度を利用したり目にしたりしていることに気付かせた。

### 【指導のポイント】<<3時間目>>

少子高齢化が進むことで、働く世代の負担が増えることに気付かせた。

### 【指導のポイント】<<4時間目>>

2050年の日本の総人口が約1億人となり、20~64歳と65歳以上の人口比は1.3:1となることが予想されていることや社会資本の老朽化が進み、建て替えなどが必要となることなどを資料から気付かせた。その上で、2050年の日本は高福祉高負担の社会を目指すのか、または低福祉低負担の社会を目指すのか、所得に応じた社会保障を受けられる社会を目指すのかなど、いくつかの選択肢を示し、議論させた。生徒自身も43歳の自分を想像しながら、自分事として考えた。

## 3 実践の成果(◎)と課題(◆)

- ◎ レシートや写真資料など身近な資料から税について学ぶことで、財政や社会保障制度といった難しい問題に対しても自分事として考える姿が見られた。
- ◎ 2050年の日本の財政と社会保障の在り方を考えた際に、色々な国の財政や社会保障制度を紹介し選択肢を与えることで、グループでの話し合いが活発に行われた。また、2050年は生徒自身も43歳と保護者の年齢に近く、イメージしやすかったように感じる。
- ◆ 2050年の日本の財政と社会保障の在り方を考えた際に、時間が足りず生徒の活動を制限する場面があった。生徒の活動時間を十分に確保できる単元計画を作成する必要があると感じた。
- ◆ 夏休みに税の作文を課題としているが、税に関する授業は中学校3年生の12月ごろのため、理解が浅いま作文に取り掛かっている現状がある。そこで、今後は指導計画を工夫し、財政や社会保障制度を学んだうえで作文を書けるようにしたいと感じた。

日本の税の公平さについて考え、将来に向けて納税者としての意識を高める。

南陽市立沖郷中学校教諭 3学年 富水 研大

実施年月日：令和5年1月 30名

1 実践計画・指導のねらい

生徒たちは、教科書で説明されている所得税や消費税等は理解できる。しかし、その他にも様々な税金が存在していること、社会に目を向けると国民の税負担増加に関わる政策が打ち出されていること等、自分が将来納税者となった時に、どんな税を、どれくらい負担するのかということまでは思いをめぐらせていない。少子高齢化により若者の税負担が大きく、昨年末には所得税増税の政策に関するニュースもあり、未来を担う生徒たちには嫌な印象が強くなる。そこで、税金が具体的にどのようなことに使用されているのか、なぜ増税が必要なのか等を理解したうえで、「公平な税負担」「将来の自分たちの税との向き合い方」について考えさせ、社会生活を成立させるための納税の大切さに気づかせたいと思い、単元を構成した。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○)、こどもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	<p>・様々な税金が存在し、集められた税金をもとに財政が行われているということを理解する。</p>	<p>○<u>財政とは何か？（税の種類・税に支えられた財政について）</u></p> <p>●国税、地方税、直接税、間接税等の種類があり、社会保障をはじめとする私たちの生活を支えるために使われていることがわかった。</p> <p>●少子高齢化が原因で若者の税負担が増えていくため、社会保障制度を維持していくことが大変である。</p> <p>□使用教材名</p> <p>・新しい社会 公民（東京書籍）</p> <p>・NHK for school アクティブ10 公民「税金、安けりやイイの？」 (<a href="https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005120496_00000">https://www2.nhk.or.jp/school/watch/bangumi/?das_id=D0005120496_00000</a>)</p>
2	<p>・日本の税制度が国民にとって公平なものかどうかについて、資料をもとに考えて自分の意見をまとめ、交流する。</p> 	<p>○<u>日本の税金は公平なものになっているか？</u></p> <p>●所得税に注目すると不公平に感じる。個人が頑張った収入なのだから、同じ税率でもいいのではないかと。</p> <p>●収入などが少なく生活が苦しい人に一律同じ税率の税負担は苦しいと思う。</p> <p>●所得税等は個人の所得額に応じて負担が決まっているため公平だと思う。</p> <p>●所得税のように税率が異なる税金もあれば、消費税のようにみんな同じ負担の税金もあるので、総じてみるとうまくバランスがとれており、公平だと思う。</p> <p>□使用教材名</p> <p>・新しい社会 公民（東京書籍） ・私たちの暮らしと税 令和4年度版</p>
3	<p>・これまで学習したり、まとめたりしたことをもとに納税者としてどのように振る舞うか、これからの税制度がどのようにになると社会がよくなるかを考え、まとめる。</p> 	<p>○<u>私たちはどのように税と向き合っていけばいいのか？</u></p> <p>●入湯税やたばこ税等、様々なところに税金があることを知った。大人になるまでに知識を増やしていきたい。</p> <p>●今の税制度に不満はないが、日本の未来や自分の老後を考えると、もう少し税負担を増やしてもいいのではないかと考えた。</p> <p>●北欧の国のように、社会保障が充実するならば税金が高くてもいいと思う。</p> <p>●納めるべき税金はきちんと納めていきたい。しかし、高齢化も進んで、若者の税負担は増えていくので税の仕組みの見直しも必要だと思う。</p> <p>●これからの税制度について、若者の考えが反映されるためにも選挙等を通して国に意見を伝えていくことが大切だと思う。</p> <p>□使用教材名</p> <p>・私たちの暮らしと税 令和4年度版</p> <p>・自民党 HP ニュース (<a href="https://www.jimin.jp/news/policy/204903.html">https://www.jimin.jp/news/policy/204903.html</a>)</p>

【指導のポイント】 <<1時間目>>

教科書を参考にしながら、プリントを用いて財政について簡潔に学習し、まとめた。さらに、消費税のような誰もが同じ税負担のもの、所得税のような個人で税負担が異なるものについて、それぞれの意見をまとめさせ、2時間目の学習につなげた。

【指導のポイント】 <<2時間目>>

生徒たちは、自分たちに身近な「消費税」や「所得税」をイメージして本時のめあてに対する答えを考えていた。そこで「私たちの暮らしと税」を参考にすることで、様々な税金があることを知り、思考がより深まった。

【指導のポイント】 <<3時間目>>

めあてについて考える際、これまでの学習を通して、「これからどのように税を納めていくか？」「今の税の制度について考えたことをどのように活かしていくか？」「税の制度について『もっとこうするべきだ』と考えたことはないか？」等の視点を具体的に与えて考えさせた。

また、昨年末に出た増税に関するニュースを提示し、税金をより身近に考えさせようとした。



3 実践の成果 (◎) と課題 (◆) (租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など)

- ◎ 動画を通して海外の税制度について学ばせたり、税負担の仕組みの公平さについて考えさせたりしたことで、生徒の中には現在の税制度について様々な意見を持つ生徒も現れ、考えが深まった。
- ◎ タイムリーなニュースを活かし、昨今の税負担増加や「復興特別所得税」等の普段耳にしない税について考えることができ、税制について今まで以上に深く考えさせることができた。
- ◆ 入試前ということもあり、十分時間をかけてディスカッションをさせることができなかった。経済分野後半の単元なので、余裕をもって計画すべきだった。(その他)「私たちの暮らしと税」を使うことで、教科書では説明されていない様々な税について詳しく知ることができた。そのため、それぞれの税金がどんな目的で、どんな人から納めてもらっているのか等、税金について視野を広げてから考えさせるとより深い話し合いになるように思う。

# 租税教育で投票行動の意義を問い直す

酒田市立第二中学校教諭 3学年 江連 由大

実施年月日：令和5年1月 95名

## 1 実践計画・指導のねらい

中学校の社会科「公民」では、政治分野の後に経済分野を学習するカリキュラムとなっており、今回は「租税教育」を通じた政治分野との往還を目指した。本校では政治分野において、単元末に模擬選挙を行う実践を数年かけて積み重ねており、今年度も生徒も熱心に政策を打ち出して選挙活動から投票まで取り組む姿が印象的だった。授業評価アンケート等を見ても、生徒から好評の実践である一方、生徒の本音に耳を傾けると「投票に行く」というインセンティブに繋がっているとは言い難いのが現状である。そこで、「租税教育」に重きを置いて財政に関する学習を進めることが、その課題克服の一手となるのではないかと考えた。単元末で「国家予算」をつくるという新たな視点からの活動を通じて政治への関心を高め、今一度、投票行動の意義を問い直したい。

また、「誰一人取り残さない」学習を実現するためにも、視覚教材やゲームなど、生徒の意欲を喚起できそうな教材を単元内に配置したところである。

## 2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○)、こどもたちの反応 (●)、使用教材等 (□)
1	「平等」と「格差」、「運」と「努力」をキーワードにし、これからの社会がどう在るべきかについて、イメージを膨らませる。	○私たちが「大きな政府」と「小さな政府」のどちらを目指すべきなのか？ ●人々が頑張れる環境をつくるために政府が格差を埋めたほうがいい。 ●格差を埋めることより、個人が努力することのほうが大切なのではないか。 □大学入試センター「共通テスト2023『倫理』大問4」 □資料集「ビジュアル公民2022」（とうほう）
2	納税の意義を理解し、「水平的公平」「垂直的公平」といった「公平」に関する見方・考え方を獲得する。 	○なぜ税が私たちにとって「公平」なものであるべきなのか？ ●税金がない世界では、子どもや高齢者が苦しい立場に置かれてしまう。 ●消費税を増税すると、所得の低い人の生活に影響がでると驚いた。 ●累進課税があることで収入に応じて支え合っていることに興味を持った。 □国税庁動画チャンネル(YouTube)「ようこそアナザーワールドへ」 □国税庁「私たちの暮らしと税」
3・4	社会保障制度のしくみを理解し、現代的課題を題材に現状と課題を探究する。 	○社会保障制度は、私たちの未来を保障するものだと見えるだろうか？ ●社会的に弱い立場の人を手助けするためにも社会保障制度は必要だと思った。 ●すべての人が夢を実現するために制度をさらに充実させるべきだ。 ●奨学金制度や就学援助制度など、自分が進路を決めるときにも役に立ちそう。 □セーブ・ザ・チルドレン「あなたのミカタ！権利がワカルと世界がワカル」 □国税庁「私たちの暮らしと税」
5・6	スプレッドシートで国家予算を作成する活動を通じて、これからの社会の在り方を構想して表現する。 	○私たちはこれからのどのような社会を目指していくべきなのだろうか？ ●国の予算はその国が何を大切にしているのかが一目で分かるものではないか。 ●歳出の割合を少し変えるだけで人々の生活が大きく変わるのだと思うと悩んだ。 ●他の班が発表するのを聞いて、医療や子育て支援を充実させるべきだと思った。 ●国家予算を作るときに国債の金額も気にしなくてはならないのが難しかった。 ●実際の国家予算はどのように決められているのか見てみたいとなった。 □財務省「財務教育プログラム 中学生向け～財務大臣になって予算を作ろう！～」 □国税庁「私たちの暮らしと税」
【単元のまとめ】(振り返りカードの記述から)		
●最初は税を払わなければいけないから払うだけだった。社会の学習を通して、その後の使い道に関心を持つことが大切だと思った。みんなのための費用はみんなで負担している。それこそ選挙などにも意欲的にならないといけないと感じた。		

### 【指導のポイント】<1時間目>

単元の学習に主体的に取り組むための環境づくりと位置づけ、架空の高校生GとHの会話を題材とした。自分の考えを記述したり、他の人と意見交流したりする活動を通して、課題を自分事として捉えることができた。

### 【指導のポイント】<2時間目>

動画を視聴し、納税が私たちの日常生活を支えていることについて理解を深められた。身近な税である消費税と所得税のしくみを比較し、それぞれのメリット・デメリットをまとめることができた。そのなかで多様な立場を想像して、税の「公平」であることの重要性に言及する姿が見られた。

### 【指導のポイント】<3・4時間目>

社会保障制度のしくみを学習し、その重要性を探究するために現代的課題である「子どもの貧困」を題材とした。「子どもの貧困」を扱うにあたっては、直截的な表現は避けるなど、目前の生徒への配慮を念頭に置いた。そこで、シミュレーションゲームを活用し、自らの高校生活を想像しながら「奨学金制度」「就学援助制度」などの制度について意欲的に学ぶことができた。

### 【指導のポイント】<5・6時間目>

国家予算の作成で、初めはゲーム感覚で歳出・歳入の増減を調整している様子が散見された。そのため、机間指導のなかで対話を重ねて歳出・歳入の増減が誰の生活に大きな影響かについて共に考えた。そのため、「年金は減りますが、代わりに生活保護を充実させて高齢者の生活を保障する」といった主張に見られるように、全体のバランスに配慮して予算を作成することができた班が多かった。

税に対する負のイメージが、学習のなかでの発見により好転したという記述が多かった。「私」を主語に現在や未来の社会について考える記述も見られた。

## 3 実践の成果 (◎) と課題 (◆) (租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など)

- ◎「『税金をこう使って欲しい』などの要望があったら、選挙で投票することも大事だと思った」という生徒の記述があり、学びのなかで感じた疑問や矛盾を表現する方法として投票行動を捉え直したのもだった。主権者として、納税者として、政治に関わろうとする意識の「芽」が生徒のなかにあることを見取ることができた。
- ◎生徒にとって学習のなかで「分からない」ことが多くでくると学習意欲が後退してしまうことが多いが、積極的に歳出の使途を調べたり、班のメンバーや担当教員との対話を通じて自らの考えを修正したりするなど、粘り強く学習に取り組む姿が印象的だった。とりわけICTの効果的な活用は、学習意欲の喚起に繋がったのではないかと考える。
- ◆教材を捨捨選択しきれなかったため、基本的なことを学ぶ場面などが駆け足になってしまうことが多かった。そのため、ゆとりをもって理解の確認をできなかった。
- ◆国家予算を立てる活動では、作成から発表まで班のなかで協力しつつ完成度の高いものを仕上げてきた。それがゆえにもっと効果的に活用できたのではないかと疑問が残る。似た予算のテーマごとに分類・比較したり、逆に相反する予算を取り上げて討論の材料にしたりなど、時数との兼ね合いもあるが、もう一歩踏み込んで探究できればよかった。

# 山形県租税教育推進協議会名簿

令和4年7月  
(順不同・敬称略)

構成機関	代表幹事	
山形県教育委員会	教育長	高橋 広樹
構成機関	幹事	
山形県市町村教育委員会協議会	会長 山形市教育委員会教育長	金沢 智也
山形県市町村教育委員会協議会教育長会	会長 山形市教育委員会教育長	金沢 智也
山形県教育庁	義務教育課長	石原 敏行
	高校教育課長	安部 康典
山形県連合小学校長会	会長 山形市立第一小学校長	江川 久美子
山形県中学校長会	会長 山形市立第一中学校長	田中 克
山形県高等学校長会	会長 山形県立山形東高等学校長	須貝 英彦
山形県特別支援学校長会	会長 山形県立ゆきわり養護学校長	三浦 祐一
山形県教育センター	所長	石山 宣浩
山形県私立中学高等学校協会	会長 私立九里学園高等学校理事・校長	九里 廣志
山形税務署	署長	佐藤 隆資
山形財務事務所	所長	皆川 修磨
山形県総務部税政課	税政課長	村上 裕樹
山形県みらい企画創造部市町村課	市町村課長	高梨 和永
山形県市長会	会長 山形市長	佐藤 孝弘
山形県の市を代表する税務主管部	山形市財政部長	山川 稔彦
山形県町村会	会長 川西町長	原田 俊二
山形県の町村を代表する税務主管課	川西町税務会計課長	有坂 強志
山形県納税推進協議会	会長 山形県総務部税政課長	村上 裕樹
東北税理士会山形県支部連合会	会長	高橋 龍二
東北税理士会山形支部	支部長	高梨 徹也
一般社団法人山形県法人会連合会	会長	鈴木 吉徳
公益社団法人山形法人会	会長	鈴木 吉徳

所 属	専 門 部	
山形県教育庁義務教育課	指導主事	島貫 祐樹
山形県教育庁高校教育課	指導主事	石黒 吉寛
山形市教育委員会学校教育課	指導主事	板垣 秀倫
山形県教育庁生涯教育・学習振興課	課長補佐	矢作 誠
山形県教育センター	副所長	樋渡 美千代
山形県教育庁義務教育課	課長補佐	佐藤 紀之
山形財務事務所	総務課長	檜木 庸浩
	企画係長	堀内 信博
山形県総務部 税政課	主査	今野 泰宏
	主事	大類 樹
山形市財政部 市民税課	税制係長	高橋 圭介
東北税理士会山形支部租税教育部	部長	須藤 雅人
山形税務署	副署長	青山 裕爾
	税務広報広聴官	小泉 毅
	税務広報広聴官	元木 陽子



# 聞いてみよう 税の話。

## 租税教室のご案内

学校で開催する租税教室の講師派遣、児童・生徒さんによる税務署見学、租税に関する資料（1億円レプリカ等）の貸出しなどのご要望は、最寄りの税務署の総務課までご連絡ください。

### 山形県内税務署

山形税務署	(023) 622-1611
米沢税務署	(0238) 22-6320
鶴岡税務署	(0235) 22-1401
酒田税務署	(0234) 33-1450
新庄税務署	(0233) 22-5111
寒河江税務署	(0237) 86-2244
村山税務署	(0237) 53-2151
長井税務署	(0238) 84-1810

### 租税教育関係ホームページ

国税庁HP「税の学習コーナー」・・・ [国税庁](#) で検索してください。

山形県税政課HP・・・・・・・・・・ [山形県税政課](#) で検索してください。

### 「租税教育実践レポート」

仙台国税局HP・・・・・・・・・・ [租税教育実践事例 山形](#) で検索してください。

令和5年3月発行

発行者 山形県租税教育推進協議会

事務局：山形市大手町1-23（山形税務署内 税務広報広聴官）